

# 音が心と心をつなぐ 技術力溢れる リード楽器専門メーカー

日本教育楽器

日本教育楽器(港区芝大門、長谷川茂行社長、03・3431・1631)は、昭和30年創業、ハーモニカやラッパ等の楽器を取り扱う。設立以来、一貫してリード楽器の専門メーカーとして、より良い音が出る廉価・堅牢の教育音楽用楽器の製造と、汎用性のあるリード部品づくりに努めている。

同社の扱う代表的な商品としては、まず、自然配列システムが子供たちに理解されやすく画期的な教育用器材だということ、文部科学省基準教育用品審査会より全国の学校へ推薦された「サカホーンハーモニカ」、今も同社の音源が国内シェア80%を占めるというハーモニカの音で沸騰を知らせる「笛吹きケトル」、さらには音階を単音で吹奏する「ペットホーン」の技術を応用した応援ラッパは、サッカーJリーグの応援に使用され、長野オリンピックでは公式応援グッズに採用された。いずれも、

業界初の新技術が話題になった大ヒット商品である。リードプレートを一体成型でつくる世界初の新製造法を開発し特許を取得、玩具用ラッパの音源として商品化した際に、その高い技術力が認められ、第20回中小企業優秀新技術・新製品「奨励賞」の栄誉を受けた。製造が途切れていた昭和の音色「とうふ屋ラッパ」を復刻、昨春より受注生産を開始して、NHK等で紹介されたことも



懐かしい音色に昭和を思い出す「とうふ屋ラッパ」

記憶に新しい。

プラスチックハーモニカの組立キットを開発し、地域の子供たちにもものづくり体験として製作してもらったことがある。自分の組み立てたハーモニカに恐る恐る息を吹き込み、音が出た時の子供たちの喜ぶ姿がとても印象的だったとのこと。「自分の手でつくり上げた達成感・充実感を多くの子供たちに体験してほしい」と長谷川社長。学校や試合会場、さらには台所まで、日本中の街角にリードの技術を活かした様々な「音が鳴り響き、一人ひとりの心をつなげていく。」



長谷川社長のアイデア溢れる“音”が日本中へ